福島第一原子力発電所現地確認報告書

１　確認日

令和８年９月２９日（火）

２　確認箇所

Ｍ／Ｃ５Ｅ電気品室建屋（図１）

３　確認項目

福島第一原子力発電所緊急時演習の実施状況

４　確認結果の概要

東京電力は、原子力事業者防災業務計画及び特定原子力施設に係る実施計画に基づき、緊急事態に備える総合的な訓練として、緊急時演習を実施している。今回は、福島第一・第二原子力発電所で同時に原子力災害が発生した場合を想定して実施された。

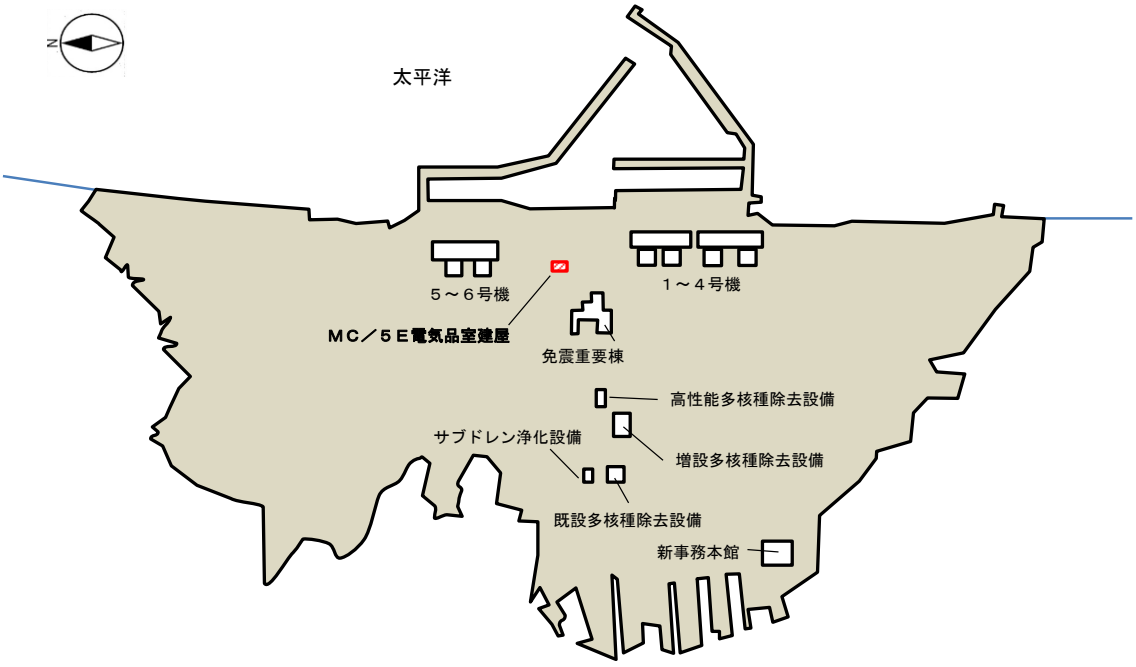
福島第一原子力発電所において、緊急時演習の一部として電源機能喪失時の電源車の起動訓練が実施されたため、その状況を確認した。（前回確認：令和７年９月２日）

確認した結果、電源車の起動までの手順が円滑に実施されていた。確認結果の概要は以下のとおりである。

・電源車の起動訓練に関係する訓練シナリオの概要は以下のとおり。
  - 13:30に立地町で震度６強を観測する地震が発生
  - 14:00に送電鉄塔の倒壊により５号機及び６号機の外部電源喪失
  - ディーゼル発電機が起動し５号機及び６号機へ代替電源の供給開始。
  - 14:30過ぎにディーゼル発電機がトリップ（機器異常等の検知による電源遮断）し、５号機及び６号機の全電源喪失
  - 緊急時対策所本部より電源車による電源供給の指示
・５号機及び６号機への電源はＭ／Ｃ※５Ｅへ電源車を接続することで供給する想定で訓練が行われた。
・Ｍ／Ｃ５Ｅへ接続する電源車はＭ／Ｃ５Ｅが設置されている建屋（Ｍ／Ｃ５Ｅ電気品室建屋）の横に３台配置されていた。（写真１）
・電源車の接続作業に当たる人員は指揮者１名、操作者２名の計３名であった。
・電源車１台の健全性を確認した後、電源車をＭ／Ｃ５Ｅ電気品室建屋横まで移動した。（写真２）
・接続に使用するケーブルの絶縁性、導電性を検査器により確認した後、電源車と接続盤をケーブルで接続した。（写真３）

※Ｍ／Ｃ：金属閉鎖配電盤、所内の高圧電源用の配電盤

・電源車の発電機を起動し、電源供給の開始操作を模擬で実施した後、運転班に受電操作依頼の連絡を行い現場での訓練が終了した。
・作業においては、指揮者と操作者間の声かけ、確認などが効果的に行われ作業が進められた。
・発電機から発生する音が大きいことから、発電機起動前にその後の確認作業中の意思疎通にはジェスチャーを用いて行う旨を指揮者、操作者間で確認した。発電機起動後は、事前に確認したジェスチャーで意思疎通を図りながら作業が進められた。
・対応力向上を目的として、以下２つの突発事象（マルファンクション）が付与された。いずれの事象に対してもその場で迅速に対応が判断され、適切に対処されていた。
  ➢ 電源車の健全性確認時に、オイル漏れが発見されたため、緊急時対策所本部へ報告した上で漏えい対策として、油吸着マットによる吸着及び油を受け止める容器を設置した。
  ➢ 電源車の発電機起動作業中に操作員１名が熱中症となり、ＥＲ（救急医療室）に連絡した後、要救護者は安全な場所に移動しＥＲからの救護を待った。その後指揮者１名、操作者１名の計２名により電源車の起動作業が継続された。



（図１）福島第一原子力発電所構内概略図



（写真１）
　電源車及びＭ／Ｃ５Ｅ電気品室建屋



（写真２）
　接続のためＭ／Ｃ５Ｅ電気品室建屋横に移動された電源車



（写真３－１）
　ケーブルの状態確認作業



（写真３－２）
　ケーブルの接続作業

５　プラント関連パラメータ確認

各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。